

PLAN NEWS

プラン・ユースグループによる
CEOインタビュー

世界を変える 若者の力

スーダン
食料危機下の
子どもの栄養改善

プラン・スポンサーシップ
登録終了した
チャイルドのストーリー
(ベトナム)



プラン・ユースグループによるCEOインタビュー

世界を変える若者の力

THANKS
40th
ANNIV

日本のプラン・インターナショナルの創立40周年を記念して、最高経営責任者（CEO）を務めるステイーブン・オモロが来日しました。プラン・ユースグループが聞き手となって、世界の問題解決に若者が果たす役割や、気候変動とジェンダーの関連性、今後のプランの取り組みなどについて詳しく聞きました。

ステイーブン・オモロ

プラン・インターナショナル 最高経営責任者（CEO）。国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、英連邦事務局、ワールド・ビジョン・インターナショナルで上級職を歴任し、人道・開発分野におけるリーダーとしての豊富な経験を有する。2022年より現職



聞き手：プラン・ユースグループ 浅野さん、石井さん
撮影：ウシオダキョウコ

一人ひとりの善を
信じて活動してきた

— 創立40周年にあたる貴重な機会にお会いすることができ、感激しています！はじめに、国際協力の分野で活動し続けている理由を教えてください。

ステイーブン・オモロ（以下、ステイーブン） 人類に奉仕し、善い行いをするためです。私は人間には善があり、それが集まれば世界を変えられると信じています。善い行いが広がればその存在は無視できなくなり、より多くの子どもや女性たちへ支援につながります。私の仕事の原動力は、一人ひとりの善を引き出し、世界全体にプラスの影響を与えることです。若い頃、私は紛争や貧困を経験し苦労しました。人間の善い面だけでなく悪い面や醜い面も目にしてきました。しかし、善い部分だけに目をむけることを選ぶようにしました。

— 一人ひとりの善を引き出すために、今まで大切にしてきたことはありますか？

ステイーブン 人の心のなかにある疑念を取り除くこと。例えば、どんなにジェンダー平等を訴えても、それは可能なのかと疑念を持たれたら、

善を引き出すことは難しいでしょう。そして、疑念を取り除くには、「ビジョンを示すこと」、「支援の成果やインパクトを明確にすること」、「説明責任を果たすこと」の3つが大切だと考え実践してきました。

若い世代が課題解決に参加することが求められる

— CEOに就任されてからこの1年間、世界各国で若者と対話することを重視されていますね。
ステイーブン 若い人たちが世界の課題解決のために議論しなければ、この世界をよりよい場所にするにはできないからです。若者は世界人口の60〜70%を占めます。彼らを巻き込まずに何かをなしとげることができないし、私たちが故郷と呼ぶ

この星が、平和に繁栄することはないでしょう。

— 気候変動の問題解決のためにも、若者たちの力が求められているとお考えですか？

ステイーブン もちろんです。気候変動の問題に取り組むためのプラットフォーム、気候変動枠組条約締約国会議（COP）で、マイクを握り気候変動の影響を熱く語っていたのは、女の子の活動家たちでした。若者たちが語る機会や場所を、もっと整える必要があると感じています。

気候変動がジェンダーの問題を深刻化させている

— プラン・ユースグループは、2023年3月に、日本の若者を対象に実施した調査をもとに「気候変動とジェンダーに関する調査報告書」を作成しました。その調査から「日本の若者たちは、気候変動の問題を認識しているものの、気候変動がジェンダー課題を深刻化させていることを理解しているのは10人に1人程度である」ことが明らかになりました。プランの支援者の方々にも、気候変動とジェンダーの問題がどう関係するのか、ピンとこない方もいらっしゃると思います。何か分かりやすい例はありますか？



ステイーブン 例えば、気候変動によって、アフリカ東部やサハラ砂漠周辺では干ばつが起っています。水汲みを担うことが多い女の子は、水源が枯れているために遠くの水源まで歩かなければならず、性暴力などに巻き込まれるリスクが高まります。HIV感染や13歳以下で望まない妊娠・出産を経験する女の子もいます。気候変動とジェンダーの問題は切り離せないのです。

— 今後、プランは、気候変動の問題にどのように取り組んでいこうとしていますか？

ステイーブン プランはすでに、気候変動や食料危機に対するさまざま

な活動を行ってきました。今後、グローバルな課題に立ち向かうために、次の3つの要素に基づいて戦略を立て活動を進めていきます。1つ目は人道支援の拡大、2つ目は、将来の担い手である若者が主体的に参加する機会を促進すること、3つ目は、子どもや住民たちを主体とした持続可能な地域づくりです。

— 最後に、支援者の方々に向けてメッセージをお願いします。

ステイーブン 皆さんは、自分の支援が人々の命や生活を救っているという実感をもつのが難しいかもしれませんが、しかし私は、一人の支援が実際にどれだけの意味を持つのか、世界各地で目撃してきました。子どもや若者、地域社会に対して、支援者の皆さんがもたらす変化の影響を目の当たりにしています。だからこそ、心からの「ありがとう」を伝えたいです。そして、皆さんがこれからも人々のために善いことをしてくれまますように願っています。

「気候変動とジェンダーに関する調査報告書」はこちらから



登録終了したチャイルドのストーリー

村の子どもたちに教育の大切さを伝えたい

6歳から18歳で登録終了になるまでの12年間、チャイルドとしてプランの活動に参加したベトナムのマイさん。スポンサーの励ましで勉学に励み、立派な社会人となった今、プランとの思い出、そしてこれからの未来について語ってくれました。

プランと私の出会い

私の名前はマイ、22歳です。ベトナムの山岳地帯にある村に住んでいます。住民の多くは、農業や畜産業を営んでいます。村の生活はとても厳しいです。多くの子どもが中学校を卒業した時点で、さらなる進学をあきらめてしまうことも多く、働きに出たり、早々に結婚して嫁ぎ先の労働力として扱われる場合もあります。そういう状況で育ったので、子どもの頃の私は、勉強にも興味をもてず、町に出て働くことばかり考えていました。

私と家族がプランの活動に参加したのは2008年、6歳のときです。チャイルドに登録されて紹介されたのは、ドイツのスポンサーでした。私が18歳でチャイルドとしての



10歳と14歳の頃、スポンサーに送った写真



登録を終了するまで交流は続き、私はスポンサーとたくさんの手紙や写真を送りつづけてきました。

スポンサーからの手紙が私を変えた

母を手伝って皿洗いをしていたとき、コミュニティ・ボランティアがスポンサーから初めての手紙を届けてくれたことを今でも鮮明に覚えています。それは私が外国から受けた、初めての手紙でした。

その手紙はとても感動的でした。私と家族を思いやる言葉にあふれていたからです。他のスポンサーと同様、私のスポンサーも教育に高い関心を寄せていて、勉強を頑張るよういつも手紙で私を励ましてくれました。そのおかげで、私は学校に通って友だちや先生に会いたいと思



中秋のお祭りのイベント



ベトナム洪水緊急支援で支援物資を配布するプラン職員

うようになり、スポンサーによる成績を報告したくて、とても努力しました。

プランが実施する読書や演劇クラブなどの課外活動にも参加しました。また、毎年、中秋のお祭りや子どもの日には、防災や安全な学校作りのための情報発信にも取り組みました。そこでは学校での防災活動を促進したり、ライフスキル・トレーニングも受けました。

プランの緊急支援を目撃した

子どもの頃の私にとってプランは、「子どものために活動するすごい団体」でした。プランのおかげで、地域で実施されていた様々な活動に参加し、多くの人からいろんな知識を学ぶことができました。

そして、大人になってから、プラ

次の世代の子どもたちへ

時間のある時には、村の子どもたちに勉強を教えています。適切な教育を受け、自分も努力することでよりよい人生を築けることを、村の子どもたちに示したい。「困難を乗り越え、よりよい人生を歩むために必要なのは教育」だということを伝えたいです。

最後に、プランがこれからもより多くの子どもたちやコミュニティを支援することができるよう、引き続きご協力いただけますと幸いです。すべてのスポンサーの皆さまの健康と幸せをお祈りするとともに、皆さまの友情と、ベトナムの子どもたちに明るい未来をもたらしてください。ことに、心より感謝します。

プランから学んだこと

プランとともに活動するなかで、私は多くの知識、なかでも生きていくうえで基本的なスキルを身につけることができました。それは、時間管理やプレゼンテーション、チームワーク、人々をまとめるスキルなどです。そのおかげで、夢をかなえるための自信をもつことができました。卒業した後は、地元の旅行会社で働

村の子どもたちに勉強を教えるマイさん

村の子どもたちに勉強を教えるマイさん

マイさんのストーリー動画

創立40周年記念サイトでご覧いただけます





マデシ州の子どもたち



○=本プロジェクトを実施するマデシ州

ネパール マデシ州の女の子が差別なく 学べるように

「排除されたグループ」と呼ばれる少数民族マデシの人々が多く暮らすネパールのマデシ州。マデシの女性が直面する差別や問題を改善することを目的に、2023年3月から開始した「ジェンダー平等推進のための教育」プロジェクトをご紹介します。

ネパールの教育事情

ネパールにおける教育へのアクセスは過去20年間で大幅に改善され、2019年には小学校の就学率は97%にまで上がりました。しかし、中学校を卒業できる子どもは、5人に1人に留まっています。地域、民族、ジェンダー、カーストなどによる格差、教育の質の問題も顕著です。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大は、女の子の教育を大きく後退させたと言われています。

このような状況のなか、プラン・インターナショナルは、2023年3月にネパール国内でも社会的、経済的發展から取り残されたマデシ州



マデシ州の中学校に通う女の子たち



(上)屋根に穴の開いた教室 (右)脆弱なつくりの危険な状態の教室



で「ジェンダー平等推進のための教育」プロジェクトを開始しました。

プロジェクトを実施するマデシ州とは

マデシ州はネパール南東部、インド国境沿いに位置しています。ネパールのなかでも最も貧困層の人口が多く、ネパール政府が「排除されたグループ」と呼ぶ少数民族マデシの人々が多く暮らしています。マデシの人々は独自の言語を母語とし、文化的には北インドとのつながりが強いのが特徴です。マデシの女性は貧困、少数民族の差別、ジェンダーやカーストに基づく差別など、複数の差別に直面しており、社会的地位が低いとされています。

マデシ州が抱える課題

プロジェクト対象地域の小中学校の多くは、脆弱なつくりで危険なうえ、女子トイレがないなど衛生環境も劣悪です。教師の知識や技能も不足しており、中途退学や留年の多さも課題となっています。また、家庭におけるジェンダーに基づく偏見や差別が根深く、十分な教育を受けられない女の子もいます。

女の子の学びを支える

このプロジェクトの対象地域は、2022年、プランが新たに活動を開始したばかりです。事務所の立ち上げからスタッフの採用、政府機関との関係づくりなども一から進められました。プロジェクトでは、マデシ州ダヌシャ郡の幼稚園併設の小中学校24校(子ども約1万4,000人)を対象に、女の子や障害のある子どもに配慮した教室や衛生設備の建設・修繕を行い、ジェンダーや障害に関する教師の能力強化に取り組めます。また、若者クラブによる啓発活動を通して、ジェンダー平等や子どもの保護に関する知識を普及します。

現地担当者からのメッセージ

大人たちの意識改革に精力的に取り組めます

マンディラ・ニューパネ職員 マデシ州の教育スペシャリスト



日本の皆さん、こんにちは。私は2010年からプランで勤務し、教育や早すぎる結婚防止のプロジェクトを担当してきました。今はマデシ州を拠点に、ジェンダー平等を促進するための教育の普及に取り組んでいます。女の子たちは、早すぎる結婚のために中途退学し、ジェンダーに基づく暴力、早すぎる妊娠による健康被害、自尊心の喪失などの問題に直面しています。女の子は教育を続けることで、潜在的な能力を高め、自信を持ち、目標を叶える力を育むことができます。私たちの取り組みに、日本の皆さまのお力を貸していただけることを願っています。

新しいガールズ・プロジェクトがスタート!

●女の子が差別なく学べるように「ジェンダー平等推進のための教育」プロジェクト(ネパール)



このプロジェクトは、外務省(NGO連携無償資金協力)の支援のもと実施します。詳細はウェブサイトをご覧ください

主な活動

- 教室の建設・修繕(14校)、水衛生設備の建設・修繕(16校)
- 月経時の女の子のための休憩室を設置(6校)
- ジェンダー平等に関する教師トレーニング(教師144人)
- 学習困難を抱える子どものための補助授業(延べ1,800人)
- 若者クラブによる啓発活動

マデシ州の女性・女の子の状況^{※2 ※3}

	女性/女の子	男性/男の子
識字率	47.7%	74.0%
18歳未満での結婚	50.5%	16.8%
妻が夫に告げずに外出した場合、妻は夫に殴られても仕方がないと考える人	25.3%	30.7%
小学校の就学率	96.1%	97.3%
中学校の就学率	68.9%	74.3%

※1 ネパール教育省, Flash I Report 2076 (2019-2020), 2020 p.10, 11 ※2 ネパール中央統計局, UNICEF, Nepal Multiple Indicator Cluster Survey 2019, 2020 p.75, 392, 402 ※3 ネパール教育省, Flash I Report 2076 (2019-2020), 2020 p.44



緊 急度が高いと判断したハナーデイは、難民キャンプの診療所に母子を連れて行きました。診療所の看護師が入院すべきと判断すると、プランは緊急搬送の手配をしました。マリामの娘は、病院で点滴治療を受け、少しずつ症状が改善していきました。しかし、周りのベッドは娘よりもひどい症状の子どもたちがたくさんいます。マリामは地域全体で栄養不良の子どもが増えていることを実感しました。

illustration by Noriyuki Goto



○は支援対象地域

スーダン 食料危機下の子どもの栄養改善 命をつなぐ栄養ボランティア

途上国における5歳未満児の死因の約45%は栄養不足にあるといわれ、スーダンでも300万人の子どもが急性栄養不良です。2023年7月より開始する、スーダン国内の難民・避難民の子どもたちへの栄養改善プロジェクトをご紹介します。

※スーダン国内の情勢によっては、活動内容に変更が生じる可能性があります。



難 民キャンプで暮らすマリामは、5人の子どもの母です。1年前に家族とともに南スーダンからの難民キャンプに逃れてきました。
ある晩、一番下の1歳の娘が、下痢をしてしまいます。水分を取らせるため母乳を飲ませようとしたが、マリामも十分な食事を取れていないので、なかなか母乳が出ません。日中は40度を超える暑さが続き、娘の症状は目に見えて悪化していきました。

娘 の症状が落ち着くと、ベッドが足りないことを理由にすぐに退院するように言われました。退院時には、「プランピー・ナッツ」という栄養治療食が1週間分提供され、きちんと食べたかを確認するため、開封済の袋を持つてくるように言われました。退院後も、ハナーデイはマリामの家を定期的に訪問し、体調や栄養状態を確認したほか、診療所に行く日を忘れないようにと、伝えました。



あ る日、見知らぬ女性がマリामのテントを訪ねてきました。ハナーデイと名乗ったその女性は、プランの研修を受けた80人の栄養ボランティアの一人でした。地域の子ども約2万人を対象に、栄養不良を見つけ出すための巡回を行っていたのです。ハナーデイは、「上腕計測メジャー」で娘の腕を測り、赤色（重度の栄養不良）であることをマリामに伝えました。

し ばらくして、プランは難民キャンプ内に給水スタンドを設置しました。娘が下痢になった原因は汚れた水を飲ませたためだと知ったマリामは、安全な水が手に入る給水スタンドがありがたく思いました。さらに、ハナーデイから母親グループに誘われ、母子の栄養改善や衛生について学びました。しかし、知識は得られなくても子どもたちのお腹を満たす食料は足りません。安心して子育てをできる日はいつになるのか、マリामの不安はまだ解消されていません。

新しいグローバル・プロジェクトがスタート!

● 故郷を追われた小さな命を救う

「食料危機下の子どもの栄養改善」プロジェクト

このプロジェクトは、ジャパン・プラットフォームの支援のもと実施します



詳細はウェブサイトをご覧ください

難民と避難民の子ども「命をつなぐ」支援

解説：プログラム部 道山 恵職員



スーダンはここ数年の天候不順や激しいインフレ、穀物価格などの高騰により、深刻な食料危機に瀕しています。さらに2023年4月に勃発した武力衝突により、状況は悪化。2023年当初は1,580万人といわれた、スーダンで人道支援を必要とする人数は2,470万人に急増しました。南スーダンからスーダンの首都ハルツ-

ムに避難していた約19万人の難民も、その多くが再避難を余儀なくされています。

このプロジェクトは栄養不良の子どもを治療食で「つなぐ」支援です。故郷を逃れた人たちが日常に戻るまでの「つなぐ」支援でもあります。子どもたちが健やかに成長できるよう、ご協力をお願いいたします。

株式会社 ファーストリテイリング

チャリティTシャツを通して 支援の輪をグローバルに広げる



(株)ファーストリテイリング サステナビリティ部
ビジネス・社会課題解決連動チームの山口由希
子さん(左)とチームリーダーの伊藤貴子さん(右)

世界平和への願いを
込めてTシャツを販売

株式会社ファーストリテイリングが展開するブランド、ユニクロは、チャリティTシャツプロジェクト「PEACE FOR ALL」を2022年にスタートさせました。「世界の平和を心から願い、アクションする」という思いを込めたプロジェクトで、これまでに世界中で100万枚以上のTシャツを販売しています。

Tシャツのデザインには、ファッション業界のほか、建築、アート、文学、映画、スポーツ、医学など各界を代表する著名人がボランティアで携わっています。Tシャツは、着る人

の思いをデザインで表現しやすく、他の人々と分かち合うことができる素晴らしいアイテムです。また、社会課題解決のために何か行動したいと思っている人にむけて、身近で楽しく参加できるツールをご提案できたのではないかと感じています。

ベトナムの児童婚を
終わらせるために

これまでのTシャツの収益金の総額は3億円以上となり、パートナーシップを結んだ3団体に順次寄付していく予定です。そのひとつにプランを選んだのは、確実な実行力と世界75カ国以上で支援を展開することが素晴らしいと思ったからです。今回の寄付金は、ベトナムにおける早すぎる結婚（児童婚）防止プロジェクトに充てていただいています。ベトナムのハザン省では、30%の女の子が18歳未満で結婚している現状の状況を驚きました。背景には、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）について正しい知識を身につけていないなどさまざまな課題があり、それらを多角的に解決する必要があります

こと。そして、児童婚を放置すると、その当事者だけでなくコミュニティの負の連鎖を止められないことなどをプランに教えていただき、活動に協力したいと思えました。

プラスのスパイラルで
地域の未来を明るく

寄付金は、SRHRに関する子どもたちへの意識啓発や能力強化、学生寮の建設などに使われると伺っています。小さなこ



早すぎる結婚（児童婚）の理解を深めるため、クイズ形式で学ぶ子どもたち

とてもいいので課題解決につながるきっかけを作っていきたいと思えます。「子どもたちの環境が良くなり地域も良くなる」といったプラスのスパイラルを起させたいと願っています。また、弊社にはベトナム人の社員も多く、チャリティTシャツが自分の国の貧困解決の一助になることがモチベーションアップにつながっているようです。

チャリティTシャツプロジェクトを拡大し、グローバルでもっと多くの寄付ができるように力を注ぎたいです。40周年を迎えたプランさんとも、引き続き一緒にいたいと思います。日本の女性にはまだまだ活躍のポテンシャルがあると思うので、国内での活動にも期待しています。

オーダーメイド・プロジェクト

Vol.7

ひとつのプロジェクトを「まるごと支援」

人生の節目を迎え
スポンサーに



中村正子さん。20年にわたりプランをご支援くださっています

50歳のとき、仕事が変わったこともあって人生の節目を迎えたいように感じていました。そんなとき新聞で、「フォスター・ペアレントになりませんか」というプラン（当時はフォスター・プラン）の広告を見て、参加することにしました。

最初に紹介されたのはインドの3歳の女の子。素敵な絵をたくさん送ってくれました。彼女は文字が書けなかったのですが、コミュニティの人から「同じ地球上にいるあなたとつながることができて感謝しています」という手紙をもらい、とても感動しました。その後もタイのチャイルドや、ベトナムのガオ村スクール・スポンサーシップにも参加して。そんな感じで20年近く続けていたら、もうやめられなくなっていました（笑）。

中村正子さん

ネパールの子どもたちに 自分が生きた証を残せた気がします

子どもにとって
一番大切な
教育への支援を決意

2019年からは、3つの「1000万円プロジェクト」にも参加しました。なかでもタンザニアの小学校を整備するプロジェクトは、子どもにとって何よりも大切な教育支援で、内容がとても充実していたのです。長年働き、退職金もいただいていたので、それなりに貯まったお金をどう活用しようかと考えたとき、タンザニアの教育支援を思い出し、オーダーメイド・プロジェクトでネパールの小学校建設への支援を決めました。どこの国



子どもたちもプロジェクトに参加。この日は校舎の安全性の確認を行いました

でも子どもにとって一番大切なのは教育で、よい環境で学んでほしいと思ったからです。プロジェクトは昨年未だに無事完了し、今年の3月には完了報告書を受け取りました。プロジェクトの経過がた

完成した「災害に強い小学校」。中央入口には、中村さんの名が入ったプレートが設置されています

くさんの写真と一緒に報告されているので成果が良く分かり、とても満足しています。特に、子どもたちや現地の人たちもプロジェクトに参加したことを知り、わずか1年の間に本当に多くの人が関わったものを作ってくれた

チャイルドとの交流で
広がった世界

今振り返ると、インドの女の子との交流をきっかけに世界が広がりました。プランが女の子と女性が社会で活躍できるよう後押ししているのは重要なことだと思っています。

私たち夫婦には子どもがいませんが、ネパールの子どもたちへの支援で自分の生きた証を残せたように思います。日本にながらにして、遠い国の子どもたちを支援できるというのは本当に素晴らしいことです。ね。



ウクライナの子どもたちが 学び続けられるように

2022年12月にプラン・インターナショナルに入局したアンナ・シャルホロドウスカー職員(以下、アンナさん)は、同年5月に、ウクライナのマウリポリから日本に避難してきました。避難民であることの証明を受け、生活も慣れた頃、あるNPO法人が主催する難民の就労支援イベントに参加したことがきっかけで、プランに入局することになりました。

入局後は日本語の勉強を継続しつつ、アドボカシーグループに所属し、ウクライナの現状や必要な支援に関する情報収集などの業務に携わっています。

2023年5月には、教育協力NGOネットワーク(JNNE)が主催したイベントに登壇し、「紛争下の教育と平和」をテーマに、紛争下のウクライナにおける子どもたちの学びの現状と改善策について

イベントに登壇するアンナさん



©JNNE

発表しました。ウクライナでは紛争により破壊された学校が多いため、リモート授業が求められているものの、環境整備が追いついていない状況であることを説明。また、国外に避難した子どもたちは、教育システムの違いや言葉の壁に直面しているため、文化的なイベントの開催によって子どもたちの心理社会的な不安を解消する必要があると述べました。

今後は日本に避難しているウクライナの女性たちへのインタビューとアンケート調査結果を公表する予定です。また、ウクライナ避難民の置かれている状況や教育の課題などをテーマに外部での講演会なども積極的に行っていきたくと考えています。

アンナさんのブログはこちら



現地の人々に寄り添い 今の自分にできることを

今号のP8-9でご紹介した「食料危機下の子どもの栄養改善」プロジェクト(スーダン)を担当する道山職員は、プラン入局10年のベテランです。現地スタッフとともに活動をすすめる道山職員の仕事をご紹介します。

プランに入局する前は、別のNGOでケニアの地域開発や人道支援に携わっていました。地域開発を進めるには時間がかかりますが、地域の人々との助け合いによって、コミュニティの創意工夫を活かしながらより尊厳のある暮らしを作り上げることを学びました。一方、人道支援は、災害や紛争など自分たちではコントロールできない外部要因によって危機にさらされている人々の人命や尊厳維持に直結するものです。この両方を経験したうえでプランに入局しましたが、開発や人道といった枠にとらわれず、その時々

の場面に応じて、どういう活動が望ましいのか、現地スタッフたちと一緒に悩みながら、自分たちにできること、必要とされる仕事をやってきて、今に至っています。今年4月、「食料危機下の子どもの栄養改善」プロジェクトのため、スーダンに出張しました。帰国して数日後、スーダンでの武力衝突が発生しました。スーダンのニュースに触れるたび、私を笑顔で受け入れてくれたスーダンの人々を思い出します。現在も首都ハルツームを中心に停電・断水が続き緊迫した状況にありますが、現地のスタッフからは人道支援を必要とす



スーダン出張中の道山職員

今回紹介する人 プログラム部 道山恵美 職員

る子どもたち、女の子たちのために活動している報告が日々入ってきます。私にできるのは、彼らの活動が途絶えることがないように、現地の状況を日本の皆さんに発信し続けることだと思っています。

道山職員のある一日 (2023年4月の出張時の1日)

7:00	7:30 -	8:00 - 10:00	10:00 - 11:00
ラマダン中のため、現地の人々は日中食事をとりません。私は部屋で軽食をとりながらメールをチェック	宿舎から白ナイル州の事務所まで歩いて移動。道は砂地で歩きにくく、蛇が出るような自然豊かな場所です	事務所内で今日の予定を打合せし、車で白ナイル州の保健省へ移動	州保健省で新プロジェクトの内容について打合せ
11:00 - 13:00	13:00 - 14:00	14:00 - 16:00	16:00 - 19:00
国内避難民キャンプで関係者や避難民との会合。活発に議論するので、集中して議論に加わります	避難民キャンプのモニタリング。日中は40度以上になりますが、ラマダンのため、日中は飲み物も飲みません	国内避難民キャンプの水源地でもある浄水場を見学。プロジェクトで設置する給水スタンドはここから配水することを確認	ホテルに戻って一息。脱水気味になるため、コーラを一気に飲んでシャワーを浴びます。日暮れとともに蚊が出るので、マラリア予防で虫よけスプレーが必須です
19:00 - 20:00	20:00 - 22:00		
18時過ぎるとラマダンが明けのため、レストランで食事。写真は、地域で一番高級なレストランの外国人向けメニュー。現地の人々は、この時間から朝の4時までの間に食事をとります	写真整理、報告書作成など。日本との時差は7時間なので、この時間に日本へメールを出すと、翌朝には日本から返事が来ており、効率よく仕事ができます		

プランのウクライナ避難民支援プロジェクトも進行中

解説: プログラム部 山形文職員

現在、プランはジャパン・プラットフォームからの支援と、皆さまからのご寄付によりウクライナ避難民支援事業をルーマニアで展開しています。

2023年1月には防寒用品を支給したほか、4月には首都ブカレストで3~6歳を対象とした就学前教室をスタートさせました。

そこでは、ウクライナ人教師を配置して栄養バランスのとれた朝食と昼食も提供しています。最初の1週間は、泣き止まない子どもや、トラウマを抱えた子どもが多く、児童心理士であるウクライナ人スタッフが対応にあたりましたが、今ではほとんどの子どもが毎日楽しく教室に通っています。

今後は教師や現地スタッフの能力強化と

ともに、保護者対象の育児トレーニングやアートセラピーなどを通じた心理社会的なケアも実施していきます。

この事業の実施に際し、アンナさんから、さまざまな助言をもらっています。例えば、生徒募集の際の選定基準や応募書類の作成について相談しました。言葉も文化も異なる国に避難しているという点で、アンナさんも同じ境遇にいるからです。

質の高い支援活動を行うためにはデータや報告書だけでは知りえない、避難民の方々の事情や心情をより深く理解する必要があります。その大きな助けとなるアンナさんからのインプットはとても貴重なものです。



就学前教室で学ぶ子どもたち

※プランは、5月9日より「スーダン危機緊急支援」の寄付募集を開始しています。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。詳細は同封のリーフレットまたはウェブサイトをご覧ください。

プラン・フレンズ主催ワークショップ

「ミッションSDGs：気候変動を乗り越えよ！」

プラン・フレンズは、プランの支援者によるボランティアグループです。ワークショップを通して途上国の現状を学び、自分にできる支援を考える開発教育を実践しています。大学生のボランティアも募集中です。

内容：「気候変動って何？」「途上国への影響は？」気候変動をめぐる問題を参加型ワークショップで学び、未来のために私たちができることを考えます。
日時：2023年8月5日（土）
13：30～16：00

場所：JICA 地球ひろば（市ヶ谷）
対象：小学5年生～中学生
定員：20名



申し込みはこちら

「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2023」へのご協力、ありがとうございました！

書き損じたり、未使用のまま手元に残ったりしたはがきを送っていただき、世界中の子どもたちを支援するこの企画。今年も8つの学校の学生ボランティアが協力してくださりました。今回も多くの方がご賛同くださり、計4万6,034枚のはがきが127万3,785円のご寄付へとつながりました。

SNSなどでデジタル化されたコミュニケーションが主流になりつつあるなかで、これだけ多くのはがきが集まりましたこと、キャンペーンにご協力くださった学生と教職員の皆さま、はがきを送ってくださった皆さまに感謝申し上げます。



キャンペーンのフライヤー

あなたも参加しませんか？

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

🌐ウェブサイト 📘フェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
<https://www.plan-international.jp/supporter/plankai>

■支援者の会に関するお問い合わせ先：
プラン・インターナショナル支援者の会担当
Mail: P-kai@plan-international.jp

プラン群馬の会

職員報告会

- 日時：7月30日（日）13時30分～16時30分
- 会場：前橋プラザ元気21 前橋市本町2-12-1
- 内容：会の活動報告とこれからの予定
職員報告会（内容未定）
懇談会
- 参加費：300円 ※要事前申込
- 申込・連絡先：星野
Mail: branca.hoshino@gmail.com

プラン名古屋の会 W f

- ワールド・コラボ・フェスタ2023 in Nagoya
- 日時：10月14日（土）、15日（日）10時～17時
- 会場：オアシス21・銀河の広場
名古屋市東区東桜1-11-1
- 内容：ブース参加（予定）
※会場運営のお手伝いを募集予定。
希望者は名古屋の会のメールアドレスにご連絡ください。
- 参加費：無料
- 連絡先：久世
Mail: plan.nagoya.party@gmail.com
電話：080-6952-3170

多摩SP会 f

職員報告会

- 日時：10月21日（土）14時30分～16時30分
- 会場：立川市子ども未来センター 202 会議室
立川市錦町3-2-26
- 内容：職員報告会（内容未定）
- 参加費：無料 ※事前申込不要
- 連絡先：矢島 Mail: tama-web3@ngo-npo.org

※「プラン・ニュース」No.124は、2023年10月上旬にお届け予定です。

プラン・スポンサーシップをご支援してくださっている皆さまへ コミュニティ訪問の受付再開のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止していたコミュニティ訪問の受付を2023年7月から再開します。これに伴い、手続きについて変更を行いました。活動国の脆弱な保健医療サービス体制や、昨今の海外情勢などを鑑みて、安全対策を強化いたします。受付再開により、ご訪問が増えることが予想されます。現地の受け入れ体制

や感染リスクを減らすため、ご希望の訪問時期の変更をお願いすることがあります。予めご了承ください。お申し込みの際に、以下のQRコードより「コミュニティ訪問の手引き」をご一読くださいますようお願いいたします。



詳細はこちら

2023年7月から、ACジャパンの支援による新たな広告がスタート！

昨年に続き、プラン・インターナショナルを支援する「2023年度ACジャパン支援キャンペーン」が始まりました。今後1年間にわたり、テレビや新聞、ラジオ、雑誌、交通機関にて広告展開されます。



今年のテーマは「わたしに違う人生があることすら知らなかった」。早すぎる結婚をし、家事や育児のために学校に通わせてもらえない、世界にはそんな女の子たちが大勢います。学ぶ機会がなければ、それが女の子に対する差別でありチャンスを奪われていることもわかりません。今回の広告では、イラストを小林エリ

カさん、ナレーションを俳優の長澤まさみさんがご担当くださいました。この広告を通して、多くの方たちがプランの活動にご関心を寄せてくださることを願っています。

オーダーメイド・プロジェクト相談会

個人や企業、または複数の方のご寄付を合わせて、プロジェクトを「まるごと支援」いただくオーダーメイド・プロジェクトの相談会を開催します。オンライン、もしくは事務局（東京・三軒茶屋）にて個別にご相談を承ります。ご関心のある方、ぜひこの機会にご参加ください。



プロジェクトの記念プレートを持つ子どもたち（ベトナム）

- 開催期間：2023年8月21～25日（月～金）10～16時
- 申込方法：ウェブサイトのフォーム、下記メール・電話でご希望の日時をお知らせ下さい
- 連絡先：hello@plan-international.jp
03-5481-7100 / 080-7739-3430

主な変更点

	変更前	変更後
ご訪問希望の連絡	ご訪問希望日の8週間前	ご訪問希望日の10週間前
新型コロナワクチン	不要	3回以上の接種証明書、あるいは陰性証明書の提出
緊急連絡先となる方の署名と捺印	不要	要

プランへの寄付となる商品・サービスのご紹介

JILL by JILL STUART が今年も寄付付きTシャツを販売

株式会社TSIは2023年4月～9月の期間、JILL by JILL STUARTから、売り上げの一部がプランに寄付されるTシャツを販売くださっています。一昨年と昨年に続く取り組みで、今年は「誰かのために、私ができること。」をテーマに、ブランドパーパスのメッセージと、イメージフォトがデザインされています。ご寄付は、「ガールズ・プロジェクト」に役立てられます。

https://store.saneibd.com/news/jillbyjillstuart/jj_news_230503.html



FRONT



BACK

創立40周年記念 支援者交流キャンペーン

「#私とプランの物語」

詳細はこちらの
40周年記念サイトを
ご確認ください



プランとの出会い、支援を通じて感じた楽しさ。「あなただけのプランとの物語」を、「#私とプランの物語」のハッシュタグをつけて、Twitterでシェアするキャンペーンを実施中です。これまでにいただいたツイートを一部ご紹介します。ぜひ皆さまの「私とプランの物語」をツイートしてください！ **期間：～2023年9月末まで（予定）**

誰かの力になりたくて始めたけれど、カブけられたのは私の方でした。

チャイルドへのお返事書けた！お忙しいだろうにご両親ともにマメにお返事書いてくださって尊敬。チャイルドの成長に嬉しさを感ぜつつ、自分のことも振り返る機会になっています。

私は世界中に子どもがいたう良いなと思います、始めました。現地の子どもの成長を写真で見たり、実際に手紙でのやりとりをすることで、知らない国、文化を知ることができ、支援をしているというより自分の楽しみのひとつに感じています。

10年前出会ってしまった。子どもの頃、世の中はおかしいと思った。大学生になって電車で目にした女の子の話。怒りと勇気。なんで。という想い。最初のチャイルド、ベトナムの女の子と手紙交換で、景色が変わった。10年経っても続けたい寄付。

新聞一面広告「フォスタープラン」を見て支援を始めました。以後約30年、チャイルドとの交流や支援者の会への参加等により異文化の学びや視野の広がりを実感しています。ライフワークとして元気の続く限り、続けたいと思います。

プラン・インターナショナルの40周年イベントにリアル参加してきました！世界の子どもたちが支援によって生活が便利になって、笑顔が増えて、人生が向上していく話を聞いて、本当に心が打ち震えました。やはり人の笑顔と幸福はかけがえないものだね！

創立40周年記念企画が目白押しです！

プランの日本事務局創立40周年を記念して、さまざまな企画をご用意しています。ぜひご参加ください。

● オンライン報告会

日本の女の子の“今”を知ろう

2023年1月にプランが東京・池袋で本格始動させた「女の子のための居場所・相談」プロジェクト。普段は見えてこない若年層の女の子を取り巻く課題や貧困、プランが日本で支援を行う必要性や意義を、現場で働く社会福祉士、心理士がお話します。



女の子の相談を受ける職員

日時：2023年7月29日（土） 11：00～12：15（予定）
場所：Zoom **申込期限：**2023年7月25日（火） 17：00

● オンラインワークショップ

あなたが決める自分らしさ～ルッキズムを語ろう～

ルッキズムとは見た目で見人を判断したり、容姿を理由に差別したりすること。プラン・ユースグループが同年代の約200人を対象に行った調査結果をもとに、ルッキズムが若者、特に若い女性を追い詰めている現状と対策について、参加型のワークショップで考えます。



大学でのワークショップの様子

日時：2023年9月10日（日） 19：00～20：30（予定）
場所：Zoom **申込期限：**2023年9月7日（木） 17：00

プランのSNSをフォローしてください

各国でのプランの活動や子どもたちの様子、事務局の日々のあれこれを発信中！



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

ソマリアに住むハムダさんは15歳。はじめて生理を迎えたとき、「生理がどういふものか全く知らず、衝撃的だった」と話します。ソマリアでは多くの女の子が生理中、学校を休みます。生理用品の入手が難しく、新聞紙や古布など不衛生なもので代用せざるをえないからです。プランは、女の子たちに再利用可能な生理用ナプキンを配布し、研修を通じて性と生殖に関する健康と権利（SRHR）への意識を高めています。

ご意見、ご感想をお寄せください



プラン・ニュース123号 アンケート